

平成30年度呉市教科用図書（中学校「特別の教科 道徳」）選定委員会

## 総合所見

平成30年8月22日（水）

呉市教科用図書選定委員会

## 総合所見

校種	中学校	種目	「特別の教科 道徳」
観点	視点	方法	
基礎・基本の定着	①道徳科の学び方等の示し方	○オリエンテーションのタイトル, 示し方, 記載例	
	②主題名の示し方	○主題名の示し方, 具体例	
	③発問の工夫	○発問の記載箇所, 数, 記載例	
主体的に学習に取り組む工夫	④問題解決的な学習を取り入れた工夫	○問題解決的な学習の扱い, 教材名, 内容項目, 問題意識の持たせ方, 発問の具体例	
	⑤体験的な学習を取り入れた工夫	○体験的な学習の扱い, 教材名等, 内容項目, 体験的な学習活動の概要, 体験的な活動を促す具体例	
	⑥自己の生き方につなげる工夫	○実生活に生かす教材等の扱い, 具体例	
内容の構成・配列・分量	⑦分量や教材の数	○判型, ページ数, 4つの視点ごとの教材数	
	⑧現代的な課題等を踏まえた内容の示し方	○いじめ問題・情報モラルの扱い, 教材等の例	
内容の表現・表記	⑨巻頭・巻末等の取扱いの工夫	○巻頭・巻末等の示し方	
	⑩教材の内容を理解させる工夫	○マーク・キャラクター等の示し方, 活用の具体例	
言語活動の充実	⑪考えを伝え合う活動の工夫	○話し合いを促す示し方, 具体例	
	⑫考えをまとめたり, 振り返ったりする活動の工夫	○考えをまとめたり, 振り返ったりする活動の示し方, まとめや振り返りの頻度数, 具体例	

※観点ごとに, 特に優れていると考えられるものに【◎】, 優れていると考えられるものに【○】を示している。

発行者	総合的な所見
東書	<p>1 ① ・各学年とも、折り込み4ページで構成されている。 ・ショートストーリーを基に学習の流れを漫画で解説し、自分の考えを書く欄や振り返りを書き込む欄が設けられている。 ・話合いのときの約束や司会カードが掲載されている。</p> <p>② ・教材ごとに、教材名の右横に、色別の4つの視点の枠の中に、マークと共に示されている。</p> <p>③ ・全ての教材の終わりの「考えてみよう！」のコーナーに、マークと共に発問が2～3個記載されている。 ・「いじめ問題対応ユニット」「生命尊重ユニット」「ACTION！」に、発問が3～8個記載されている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>2 ④ ・問題解決的な学習ができるよう、全ての教材の終わりの「考えてみよう！」のコーナーに、発問が示されている。 ・特に2時間扱いの教材では、問題の発見から話合いまでの学習の流れを明示したページが設けられている。</p> <p>⑤ ・体験的な学習を促す教材の後に、役割演技や体験学習を通して議論する教材である「ACTION！」が設けられており、目次及び該当ページにマークを付けて示されている。</p> <p>⑥ ・教材の終わりに、実生活につなげるための発問が示された「考えてみよう！」のコーナーが設けられている。 ・教材の冒頭に、関連して扱うことのできる教科がマークで示されている。 ・教材で学習した内容を広げるためのコラムである「Plus」のページや、教材の終わりや巻末に「読書で広げる道徳」が設けられている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>3 ⑦ ・判は、AB判。 ・別冊なし。 ・ページ総数181～189。 ・教材数35（付録の5教材を含む）。</p> <p>⑧ ・いじめ問題に関する読み物教材が全学年で10教材（うち直接的に扱った教材が各学年に複数ある）、情報モラルに関する読み物教材が全学年で5教材設定されている。 ・複数教材をまとめたユニットを設け、目次にも示されている。 ・主題名を「情報モラルと友情」と設定された教材が、各学年に1教材ずつ設けられている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>4 ⑨ ・巻頭：目次では、全ての教材名や教材の構成等についての説明が、2段で示されている。また、写真を背景にした詩や教材名を4つの視点ごとに示したページが設けられている。 ・巻末：「郷土のことを考える」等の付録や、テーマごとに教材を分類したページ、学期ごとに学習の記録を記入するページ、切り取り式の「心情円」や「ホワイトボード用紙」が設けられている。</p> <p>⑩ ・目次及び全ての教材の冒頭に、4つの視点を示したマーク、教材の終わりに「考えてみよう！」のマーク、教材の下段に「つぶやき」のマークが設定されている。 ・その他、「ACTION！」のマーク、「Plus」のマーク、教科との関連を示すマーク、デジタルコンテンツが用意されていることを示すマークが設定されている。 ・キャラクターとして、学習の進め方を示す「考えタイガー」等が設定されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>5 ⑪ ・各学年とも、巻頭「道徳の授業はこんな時間に」において、「話し合いの手引き」やショートストーリーを例とした話合いの場面を設定し、話合いの具体的なプロセス等が示されている。 ・各学年とも、教材の途中や終わりに、話合いを促す発問が示されている。</p> <p>⑫ ・教材の途中や終わりに、考えをまとめて書き込む欄を設けた教材（7～9教材分）や、感じたことなどを書き込む欄が設けられた教材がある。 ・巻末に、授業の取組について振り返ったり、心に残った教材や授業で学んでよかったこと等を記録したりする振り返りのページが、3回分設けられている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>

発行者	総合的な所見
学図	<p>1 ① ・各学年とも、見開き2ページの下部に掲載されている。          ・道徳の学習の流れが「教材に出会ったとき」「考え、議論するために」「振り返る」と示され、それぞれの学習の進め方や態度等に係る留意点が掲載されている。</p> <p>② ・教材ごとに、色別の4つの視点のマークと教材名の間を示されている。</p> <p>③ ・全ての教材の終わりの「学びに向かうために」のコーナーに、発問が3～4個記載されている。          ・「心の扉」のページに、発問が1～4個記載されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>2 ④ ・問題解決的な学習ができるよう、全ての教材の終わりの「学びに向かうために」のコーナーに、発問が示されている。</p> <p>⑤ ・教材の終わりの「学びに向かうために」のコーナーに、体験的な学習を促す発問が示されている。</p> <p>⑥ ・教材の終わりに、「見つめよう」のマークを付け、大事なことを自分のこととして見つめるための発問が示されている。          ・多面的・多角的なものの見方や考え方を促したりする「心の扉」や、健康・安全に気をつけて、充実した毎日を送るよう促すページ「さあ、楽しい夏休み！」が設けられている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>3 ⑦ ・判は、AB判。          ・別冊なし。          ・ページ総数224～228。          ・教材数35。</p> <p>⑧ ・いじめ問題に関する読み物教材が全学年で9教材、情報モラルに関する読み物教材が全学年で5教材設定されている。また、いじめ問題及び情報モラルに関する特設ページが設けられている。          ・いじめ問題を扱う教材には「いじめの防止」マークが、情報モラルを扱う教材には「情報のモラル」マークが目次及び教材に示されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>4 ⑨ ・巻頭：目次では、3ページにわたって、全ての教材名やマークについての説明が示されている。また、「心の扉」の該当ページを示したページ、グループワークを掲載したページが設けられている。          ・巻末：一年間の振り返りを記入するページや、教科書で目指すことを保護者に対して示したページ、4つの視点及びキーワードごとの教材一覧が掲載されている。</p> <p>⑩ ・目次及び全ての教材の冒頭に、4つの視点を示したマーク、教材の終わりに、「考えよう」「見つめよう」等の活動のマーク、教材の冒頭の下に、「いじめの防止」等の「大切な10のポイント」のマーク、教材の終わりに、「振り返ろう」のマークが設定されている。          ・「心の扉」のマーク、巻末において、考えや振り返りを書き込む欄に鉛筆のマークが設定されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>5 ⑪ ・各学年とも、巻頭「道徳の学習を始めよう！」において、話合いのポイントを示すと共に、「学級づくり」のページにおいて、話合いを促すグループワークが設けられている。          ・各学年とも、「学びに向かうために」のコーナーに、教材における話合いを促す発問が示されている。</p> <p>⑫ ・教材の終わりに、メモ欄が設けられたり、「心の扉」のページに、考えをまとめて書き込む欄が設けられたりしている。          ・思ったことや感じたことについて、教材ごとに学習の振り返りをする欄や、巻末に一年間の学習を振り返る欄が設けられている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>

発行者	総合的な所見
教出	1 ① ・各学年とも、見開き2ページで構成されている。 ・道徳の学習で特に深く考えさせたい重点テーマが教材名と共に示されている。 ・1年生のみ、見開き2ページで、教材を読んだり、考えたり、話し合ったりするときの視点や留意したいこと及び道徳の学び方が示されている。 ② ・主題名は示されていないが、教材ごとに、4つの視点を表す色別の枠の中に教材番号が示されている。 ③ ・全ての教材の終わりの「学びの道しるべ」のコーナーに、4つの視点を表すマークと共に、発問が3個ずつ記載されている。 ・「やってみよう」のページに、発問が2～5個記載されている教材や、1年生のみ、教材の途中で発問が記載された教材がある。
	2 ④ ・問題解決的な学習ができるよう、全ての教材の冒頭に発問が示されている。 ・全ての教材の終わりの「学びの道しるべ」のコーナーに、発問が示されている。 ⑤ ・体験的な学習を促す教材の後に、実際に場面を演じたり、よりよい行いの練習をしたりして、教材での学びを深めるページである「やってみよう」が設定されており、目次及び該当ページにマークを付けて示されている。 ⑥ ・教材の終わりに、自己の生き方に引きつけて考えるための発問が示された「学びの道しるべ」のコーナーが設けられている。
	3 ⑦ ・判は、B5判。 ・別冊なし。 ・ページ総数178～194。 ・教材数35（付録の5教材を含む）。 ⑧ ・いじめ問題に関する読み物教材が全学年で7教材（うち直接的に扱った教材が各学年に複数ある）、情報モラルに関する読み物教材が全学年で5教材設定されている。 ・巻頭に、重点テーマとして、いじめ問題を扱う教材は「いじめや差別のない社会に」、情報モラルを扱う教材は「情報とよりよくつき合う」が示されている。 <div style="text-align: right;">【◎】</div>
	4 ⑨ ・巻頭：目次では、4つの視点で色分けした教材番号と共に全ての教材名を2段で示すと共に、「学びの道しるべ」等のコーナーの活用を促している。 ・巻末：印象に残った教材や考えたことを書き込むページ、家の人や先生が書き込む欄を含め、どんな上級生になりたいかを書き込むページ、「都道府県にゆかりのある人物と、その言葉」が掲載されている。 ⑩ ・目次及び全ての教材の冒頭に、4つの視点を色分けしたマーク、教材の終わりに、「学びの道しるべ」のマーク、教材名の下及び「学びの道しるべ」に、「問い」のマーク、教材の後に「やってみよう」のマークが設定されている。
	5 ⑪ ・各学年とも、巻頭「道徳って、どんなふうに学習したらいいの？」において、話合いのポイントを示すと共に、教材の終わり「学びの道しるべ」のコーナーに、教材における話合いを促す発問が示されている。 ・各学年とも、「やってみよう」のページに、教材における話合いを促す発問が示されている。 ⑫ ・「やってみよう」のページに、自分の考えや感想等を書く欄を設けた教材（1～2教材分）、また、1年生のみ、教材の途中で理由等を書く欄を設けたページ（3教材分）が設けられている。 ・巻末に、印象に残った教材等（3教材分）を記録したり、新しい発見等があった教材に色を塗ったりする欄、また、どんな自分になりたいかを、家の人や先生も含めて記入する欄が設けられている。 <div style="text-align: right;">【◎】</div>

発行者	総合的な所見
光村	<p>1 ① ・各学年とも、計5ページで構成されている。  ・1, 2年生では、道徳の授業は、他者や自己と対話しながら主体的に考えることであることが示されており、3年生では、内容項目を簡潔な問いにしたものが「二十二個の鍵」として示されている。  ・てびきの構成や道徳を学ぶ意義について示したページが設けられている。</p> <p>② ・主題名は示されていないが、教材ごとに、教材の右横に、4つの視点を表すマークと内容項目のキーワード等が示されている。</p> <p>③ ・全ての教材の終わり又は途中の「学びのテーマ」のページに、発問が2～7個記載されている。  ・1, 2年生では、「確かめよう」のページに、発問が2～3個記載されている。  ・各学年とも、コラムに発問が1～4個記載されている。</p>
	<p>2 ④ ・問題解決的な学習ができるよう、全ての教材の冒頭又は終わりの「てびき」に、発問が示されている。</p> <p>⑤ ・直前の教材と関連させながら、イラストとともに発問を掲載して、体験的な学習を促すコラム「人と人との関係づくり」が設けられており、目次にも示されている。</p> <p>⑥ ・教材の終わりの「てびき」のページに、授業で学んだことと他の教科や普段の生活との関わりなどを示した「つなげよう」が設けられている。  ・いじめ問題など現代的な課題や人とよりよい関係を築くためのコラムが設けられている。  ・巻末に、他教科・領域との関わりが示された「内容項目別教材一覧」が設けられている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>3 ⑦ ・判は、B5判。  ・別冊なし。  ・ページ総数224～232。  ・教材数36。  ・年間の学習が4つの「シーズン」（まとまり）に分けられている。</p> <p>⑧ ・いじめ問題に関する読み物教材が全学年で24教材（うち直接的に扱った教材が各学年に複数ある）、情報モラルに関する読み物教材が全学年で5教材設定されている。また、いじめ問題及び情報モラルに関するコラムが設けられている。  ・巻末では、「テーマ別教材一覧」に、いじめ問題に関する教材がテーマを付けて示されている。また、内容項目別教材一覧に、いじめ問題や情報モラルを扱う教材が示されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>4 ⑨ ・巻頭：目次では、学習のまとまりを色で区別して全ての教材名や学習する時期を示すと共に、ユニットのテーマや教材の冒頭に付いているマークについて紹介されている。また、イラストを背景にした詩が掲載されている。  ・巻末：「日本の郷土玩具」等の資料、各分野で活躍している人のメッセージ、テーマ別や内容項目別の教材一覧、四つのシーズンごとに道徳の時間を振り返る切り取り式の折込みページが設けられている。</p> <p>⑩ ・全ての教材の冒頭に、4つの視点を示したマークが設定されている。  ・目次及び扉ページに、1年間で4つに分けたまとまりを示すシーズンのマーク、現代的な課題について学びを深めるページに「コラム」のマークが設定されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>5 ⑪ ・1, 2年生では、巻頭「『対話』で広がる、道徳の時間」において、話合いのポイントが示されている。  ・1年生では、コラムの中に「考えよう」のコーナーに内容における話合いを促す発問を、2, 3年生では、「てびき」や「確かめよう」のページに話合いを促す発問が示されている。</p> <p>⑫ ・教材の終わりや途中にある「てびき」に、自分が感じたことや考えたことを記入する欄が設けられている。  ・2, 3年生において、教材の途中に自分の考えを記入する欄が設けられたページがある（1～2教材分）。  ・巻末に、シーズンごとの自分の学びの振り返りや考えを記述する折込みページ、3年生においては、自分の人生目標を書く年表が設けられている。</p>

発行者	総合的な所見
1 日文	<p>① ・各学年とも、別冊ノートを含め、計3ページで構成されている。            ・道徳科で学ぶことの意義や4つの視点の広がりを図で表したものの、道徳科での学びの流れ及び学びをより深めるための手立てが示されている。            ・別冊ノートには、4つの視点ごとに学習したい内容項目をチェックしたり、自分のことについて書き込む欄が設けられている。</p> <p>② ・教材ごとに（別冊ノートも含む）、教材名の上の色別の4つの視点の枠の中に、4つの視点を表すマークと共に示されている。</p> <p>③ ・全ての教材の終わりの「考えてみよう」のコーナー、「自分に+1」のコーナーに発問がそれぞれ1個ずつ記載されている。            ・「学習の進め方」のページに、発問が3～5個記載されている。            ・別冊ノートに、それぞれの発問に対して書き込む欄が設けられている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>2 ④ ・問題解決的な学習に適した教材には、目次や該当ページ及び巻末にマークを付けて示し、教材の終わりの、問題を解決するための「学習の進め方」のページに、発問が示されている。</p> <p>⑤ ・直前の教材と関連させながら、体験的な学習を促す「学習の進め方」のページが設けられており、目次や該当ページ及び巻末の内容項目別教材一覧に、マークを付けて示されている。</p> <p>⑥ ・教材の終わりに、マークを付けて、自分を客観的に振り返り、学んだことを前向きに生かすための発問が示された「自分に+1」が設けられている。            ・学習した内容を広げ、考えや視野を広げるコラムである「プラットホーム」が設けられている。            ・巻末に、教科等との関連が示された「内容項目別教材一覧」が設けられている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>3 ⑦ ・判は、B5判。            ・別冊あり（教材ごとに構成）。            ・ページ総数191（別冊は40）。            ・教材数35。</p> <p>⑧ ・いじめ問題に関する読み物教材が全学年で14教材、情報モラルに関する読み物教材が全学年で7教材設定されている。また、いじめ問題及び情報モラルに関するコラムが設けられている。            ・いじめ問題や情報モラルに関する教材とコラムを組み合わせたユニットが各学年で設定され、いじめ問題に関する最初のユニットに、扉ページ「『いじめ』と向き合う」が設けられている。            ・目次及び巻頭や巻末に、いじめ問題や情報モラルを扱う教材が示されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>4 ⑨ ・巻頭：目次では、全ての教材名や教材の構成、マークの説明が示されている。また、写真及び学年の大テーマが掲載されたページ、教材がテーマごとに示されたページが設けられている。別冊ノートには、目次及び別冊ノートの使い方が示されている。            ・巻末：テーマや教科等との関連等が記載された内容項目別教材一覧、写真を背景にした詩が掲載されている。別冊ノートには、話合いの内容をメモしたりまとめたりする欄等が設けられている。</p> <p>⑩ ・全ての教材の冒頭及び別冊ノートの教材名の横に、4つの視点がマークで示されている。            ・目次や教材に、問題解決的な学習や体験的な学習のマーク、「デジタルマーク」、「プラットホーム」のマーク、「参考」のマーク、「私の生き方」のマークが設定されている。            ・目次や教材の終わり及び別冊ノートに、「考えてみよう」「自分に+1」のマークが設定されている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>
	<p>5 ⑪ ・各学年とも、巻頭「道徳科での学び方」の中において、話合いのポイントを、教材の終わり「学習の進め方」のページに、教材における話合いを促す発問や「話し合いの例」が示されている。            ・各学年とも、別冊ノートの各ページ及び巻末に、友達の意見や話合いをメモする欄が設けられている。</p> <p>⑫ ・別冊ノートに、教材の終わりに掲載された発問について、自分で考えたことなどを書き込む欄（各教材分）や、巻末に話合いの内容をメモしたりまとめたりする欄が設けられている（6回分）。            ・別冊ノートに、授業で学んだこと等について振り返る欄（各教材分）や、巻末に道徳の学習で印象に残ったこと等を記入する保護者記入欄付きの振り返りのページが設けられている（3回分）。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>

発行者	総合的な所見
学研	<p>1 ① ・各学年とも、見開き2ページで構成されている。          ・考えを深めるための流れとして、「教材と出会う」「教材をもとに考える」「話し合い、磨き合う」「生き方についての考えを深める」の4つが示されている。</p> <p>② ・主題名は示されていないが、教材ごとに、教材番号と教材名の間に、4つの視点を表す色別のラインが示されている。</p> <p>③ ・教材の終わりに、4つの視点を色で表したマークと共に、発問が1～2個記載されている。          ・発問が記載されていない教材については、「深めよう」のページに発問が3～4個記載されている。          ・「クローズアップ」のページに発問が1～4個記載されている教材や、教材の途中に発問が1～2個記載されている教材もある。</p>
	<p>2 ④ ・問題解決的な学習ができるよう、「深めよう」のページに、発問が示されている。</p> <p>⑤ ・直前の教材と関連させながら、体験的な学習を促す「深めよう」のページが設けられており、目次にも示されている。</p> <p>⑥ ・関連情報を示した「クローズアップ」等のページが設けられている。          ・「深めよう」のページに、授業で学んだことを生活の中で実践するよう促す「踏み出そう」が設けられている。          ・巻末の内容項目別教材一覧に、他の各教科等との関連例が設けられている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>3 ⑦ ・判は、A4判。          ・別冊なし。          ・ページ総数180～184。          ・教材数35。</p> <p>⑧ ・いじめ問題に関する読み物教材が全学年で14教材、情報モラルに関する読み物教材が全学年で6教材設定されている。また、いじめ問題及び情報モラルに関する特設ページが設けられている。          ・巻頭の「様々なテーマで学ぼうー主な教材の紹介」に、「いじめをなくすために」というテーマが設定され、教材が示されている。          ・情報モラルを扱っている教材には、目次や教材の冒頭に、マークを付けて示されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>4 ⑨ ・巻頭：目次では、マークについての説明及び全ての教材名が2段で示されている。また、写真を背景として著名人の言葉を記載したページや、教材名を内容項目や6つのテーマに合わせて分類したページ、自分の好きな言葉等を記入するページが設けられている。          ・巻末：「大切な友達に贈りたい言葉」等について書き込むページや、教材と学習指導要領・道徳の内容及び他の各教科等との関連例のページが設けられている。</p> <p>⑩ ・目次及び全ての教材の冒頭に、4つの視点を色分けして示し、教材の終わりに、4つの視点の色と同じ色の旗のマークが設定されている。          ・「クローズアップ」「クローズアッププラス」「深めよう」のページにそれぞれのマーク、「情報モラル」に関する教材であることを示したマーク、書き込み欄のマークが設定されている。</p>
	<p>5 ⑪ ・各学年とも、巻頭「新しい扉を開く」において、話し合いのポイントが示されている。          ・2、3年生において、教材の終わりに、教材における話し合いを促す発問を、各学年の教材の終わり「深めよう」のページに、「話し合おう」を設定し、グループでの話し合いの流れが示されている。</p> <p>⑫ ・「クローズアップ」「深めよう」のページや教材の途中に、自分の考えを書き込む欄が設けられた教材がある。          ・教材の終わり「深めよう」のページに話し合いを振り返って気付いたことを書く欄（4教材分）や、巻末に1年間の自分の成長を振り返るページが設けられている。</p>



発行者	総合的な所見
廣あかつき	<p>1 ① ・各学年とも、別冊ノートを含め、計3ページで構成されている。右ページに道徳の時間の意義について、左ページにその具体として「さまざまな答えがある」等が示されている。 ・別冊ノートにおいて、ノート活用の意義等が示されている。</p> <p>② ・別冊ノートに、主題名が内容項目ごとに示されている。また、教材ごとに、教材名の上に、4つの視点を表す色別の教材番号、また、教材名の下に4つの視点を表す色別のマークが示されている。</p> <p>③ ・全ての教材の終わりに、4つの視点を色で表した枠の中の「考える・話し合う」のコーナーに、発問が3～5個記載されている。 ・道徳ノートでは、内容項目ごとのページに、発問が2～3個記載されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>2 ④ ・問題解決的な学習ができるよう、教材の終わりの「考える・話し合う」のコーナーに、学習のめあてや発問が示されている。</p> <p>⑤ ・教材の終わりの「考える・話し合う」のコーナーに、体験的な学習を促すことにつながる活動が掲載されている。</p> <p>⑥ ・教材の終わりの「考える・話し合う」のコーナーに、自分との関わりや、自己の体験を想起して考える発問を示した「考えを広げる・深める」が設けられている。 ・巻末に、情報モラル等を題材とした特集ページが設けられている。 ・別冊ノートに、自己の生活や様々な体験活動との関連を図った発問が示されている。</p>
	<p>3 ⑦ ・判は、AB判。 ・別冊あり（内容項目ごとに構成）。 ・ページ総数158～178（別冊は60）。 ・教材数35。 ・別冊ノートでは、教材が内容項目ごとに配列されている。</p> <p>⑧ ・いじめ問題に関する読み物教材が全学年で9教材、情報モラルに関する読み物教材が全学年で5教材設定されている。また、いじめ問題及び情報モラルに関する特設ページが設けられている。</p>
	<p>4 ⑨ ・巻頭：目次では、全ての教材名及びマークの説明が示されている。また、豊かな自己の形成のための段階を示したページが設けられている。別冊ノートには、目次に加えて自分のことについて書き込むページが設けられている。 ・巻末：「情報モラル」等についてのコラムや内容一覧のページが設けられている。別冊ノートには、学習の記録をするページや、教材ごとや内容項目ごとの自己評価等をするページが折り込みページで設けられている。</p> <p>⑩ ・全ての教材の冒頭に、4つの視点を色分けした丸が示されている。 ・教材の終わりに、「考える・話し合う」等のマーク、先人や著名人の言葉が掲載されているところに木の葉マーク、教材と関連して学びを深める特集のページに「thinking」のマーク、別冊ノートの中で自分の考えを書く欄に、鉛筆のマークが設定されている。</p> <p style="text-align: right;">【○】</p>
	<p>5 ⑪ ・各学年とも、巻頭「道徳の時間とは」において話合いの意義が、教材の終わり「考える・話し合う」のコーナーに教材における話合いを促す発問が示されている。 ・各学年とも、別冊ノートの巻末に、話合い活動を記録する欄が設けられている。</p> <p>⑫ ・別冊ノートに、自分の考えや、学習を通して感じたこと、考えたことをまとめる欄、話合いを通して新たに気づいたことや考えたことをまとめる欄、学習の記録を書く欄が設けられている。 ・別冊ノートに、自分のことについて振り返って書く欄、心に残っている授業の記録を書く欄、教材ごとや内容項目ごとの自己評価、学期ごとに伸ばしていきたいことなどについて振り返る折り込みページが設けられている。</p> <p style="text-align: right;">【◎】</p>

発行者	総合的な所見
日科	<p>1 ① ・各学年とも、計3ページで構成されている。          ・内容項目のキーワード、道徳科の学習の流れ、多様な考えを知るための方法が示されている。          ・教科書の使い方が示されているとともに、自分の好きなことや好きな言葉などについて書き込む欄が設けられている。</p> <p>② ・主題名は示されていないが、教材ごとに、教材名の上に、4つの視点を表す色別の枠の中に、内容項目の番号が示されている。</p> <p>③ ・全ての教材の終わりの「考え、話し合ってみよう そして、深めよう」のコーナーに、4つの視点を色で表したマークと共に、発問が1～3個記載されている。          ・発問が1～4個記載された特設ページや、教材の途中で発問が記載されたページ（1、3年生のみ）が設けられている。</p> <p style="text-align: right;">【〇】</p>
	<p>2 ④ ・問題解決的な学習ができるよう、教材の終わりの「考え、話し合ってみよう そして、深めよう」のコーナーに、発問が示されている。</p> <p>⑤ ・体験的な学習を促すことにつながる活動が掲載されている。</p> <p>⑥ ・教材の終わりに、実生活に生かすことを促す発問が示された「考え、話し合ってみよう そして、深めよう」のコーナーが設けられている。          ・自分の考えを広げたり、深めたりすることをねらいとしたコラムが設けられている。</p>
	<p>3 ⑦ ・判は、B5判。          ・別冊なし。          ・ページ総数192。          ・教材数37。          ・教材が内容項目順に配列されている。</p> <p>⑧ ・いじめ問題に関する読み物教材が全学年で9教材、情報モラルに関する読み物教材が全学年で4教材設定されている。また、情報モラルに関する特設ページが設けられている。</p>
	<p>4 ⑨ ・巻頭：目次では、内容項目順に並んでいる全ての教材名が2段で示されている。また、写真やイラストを背景とした詩が掲載されている。          ・巻末：1年間の成長や道徳の授業等について振り返るページが設けられている。また、4つの視点で色分けして、内容項目ごとに全ての教材名を示した学習指導要領との対応表が設けられている。</p> <p>⑩ ・全ての教材の冒頭に、4つの視点が色分けして示されている。          ・「考え、話し合ってみよう そして、深めよう」のマーク、特設ページに、「もっと知りたい」等のマークが設定されている。</p>
	<p>5 ⑪ ・各学年とも、巻頭では、「道徳科って何を学ぶの？」において話合いのポイントが示され、「教科書の使い方」のページにおいて話合いが促されている。          ・各学年とも、教材の終わり「考え、話し合ってみよう そして、深めよう」のコーナーに、教材における話合いを促す発問が示されており、話合いを促した「コラム」が設定されている。</p> <p>⑫ ・教材の途中やコラムに、自分の考えを書き込む欄が設けられた教材がある（3～4教材分）。          ・巻末に、1年間の成長や道徳の授業等について振り返るページが設けられている。</p> <p style="text-align: right;">【〇】</p>

**【観点1】  
基礎・基本の定着**

	①	②	③	
視点	道徳科の学び方等の示し方	主題名の示し方	発問の工夫	
方法	オリエンテーションのタイトル、示し方、記載例	主題名の示し方、具体例	発問の記載箇所、数、記載例	
東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年とも、折り込み4ページで構成されている。</li> <li>ショートストーリーを基に学習の流れを漫画で解説し、自分の考えを書く欄や振り返りを書き込む欄が設けられている。</li> <li>話合いのときの約束や司会カードが掲載されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材ごとに、教材名の右横に、色別の4つの視点の枠の中に、マークと共に示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての教材の終わりの「考えてみよう！」のコーナーに、マークと共に発問が2～3個記載されている。</li> <li>「いじめ問題対応ユニット」「生命尊重ユニット」「ACTION！」に、発問が3～8個記載されている。</li> </ul>	◎
学図	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年とも、見開き2ページの下部に掲載されている。</li> <li>道徳の学習の流れが「教材に出会ったとき」「考え、議論するために」「振り返る」と示され、それぞれの学習の進め方や態度等に係る留意点が掲載されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材ごとに、色別の4つの視点のマークと教材名の間に示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての教材の終わりの「学びに向かうために」のコーナーに、発問が3～4個記載されている。</li> <li>「心の扉」のページに、発問が1～4個記載されている。</li> </ul>	○
教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年とも、見開き2ページで構成されている。</li> <li>道徳の学習で特に深く考えさせたい重点テーマが教材名と共に示されている。</li> <li>1年生のみ、見開き2ページで、教材を読んだり、考えたり、話し合ったりするときの視点や留意したいこと及び道徳の学び方が示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主題名は示されていないが、教材ごとに、4つの視点を表す色別の枠の中に教材番号が示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての教材の終わりの「学びの道しるべ」のコーナーに、4つの視点を表すマークと共に、発問が3個ずつ記載されている。</li> <li>「やってみよう」のページに、発問が2～5個記載されている教材や、1年生のみ、教材の途中で発問が記載された教材がある。</li> </ul>	
光村	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年とも、計5ページで構成されている。</li> <li>1、2年生では、道徳の授業は、他者や自己と対話しながら主体的に考えることであることが示されており、3年生では、内容項目を簡潔な問いにしたものが「二十二個の鍵」として示されている。</li> <li>てびきの構成や道徳を学ぶ意義について示したページが設けられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主題名は示されていないが、教材ごとに、教材の右横に、4つの視点を表すマークと内容項目のキーワード等が示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての教材の終わり又は途中の「学びのテーマ」のページに、発問が2～7個記載されている。</li> <li>1、2年生では、「確かめよう」のページに、発問が2～3個記載されている。</li> <li>各学年とも、コラムに発問が1～4個記載されている。</li> </ul>	
日文	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年とも、別冊ノートを含め、計3ページで構成されている。</li> <li>道徳科で学ぶことの意義や4つの視点の広がりや図で表したものを、道徳科での学びの流れ及び学びをより深めるための手立てが示されている。</li> <li>別冊ノートには、4つの視点ごとに学習したい内容項目をチェックしたり、自分のことについて書き込む欄が設けられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材ごとに（別冊ノートも含む）、教材名の上の色別の4つの視点の枠の中に、4つの視点を表すマークと共に示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての教材の終わりの「考えてみよう」のコーナー、「自分に+1」のコーナーに発問がそれぞれ1個ずつ記載されている。</li> <li>「学習の進め方」のページに、発問が3～5個記載されている。</li> <li>別冊ノートに、それぞれの発問に対して書き込む欄が設けられている。</li> </ul>	◎
学研	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年とも、見開き2ページで構成されている。</li> <li>考えを深めるための流れとして、「教材と出会う」「教材をもとに考える」「話し合い、磨き合う」「生き方についての考えを深める」の4つが示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主題名は示されていないが、教材ごとに、教材番号と教材名の間に、4つの視点を表す色別のラインが示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材の終わりに、4つの視点を色で表したマークと共に、発問が1～2個記載されている。</li> <li>発問が記載されていない教材については、「深めよう」のページに発問が3～4個記載されている。</li> <li>「クローズアップ」のページに発問が1～4個記載されている教材や、教材の途中で発問が1～2個記載されている教材もある。</li> </ul>	
廣めかつぎ	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年とも、別冊ノートを含め、計3ページで構成されている。右ページに道徳の時間の意義について、左ページにその具体として「さまざまな答えがある」等が示されている。</li> <li>別冊ノートにおいて、ノート活用の意義等が示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>別冊ノートに、主題名が内容項目ごとに示されている。また、教材ごとに、教材名の上に、4つの視点を表す色別の教材番号、また、教材名の下に4つの視点を表す色別のマークが示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての教材の終わりに、4つの視点を色で表した枠の中の「考える・話し合う」のコーナーに、発問が3～5個記載されている。</li> <li>道徳ノートでは、内容項目ごとのページに、発問が2～3個記載されている。</li> </ul>	○
日科	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年とも、計3ページで構成されている。</li> <li>内容項目のキーワード、道徳科の学習の流れ、多様な考えを知るための方法が示されている。</li> <li>教科書の使い方が示されているとともに、自分の好きなことや好きな言葉などについて書き込む欄が設けられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主題名は示されていないが、教材ごとに、教材名の上に、4つの視点を表す色別の枠の中に、内容項目の番号が示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての教材の終わりの「考え、話し合ってみよう」として、深めよう」のコーナーに、4つの視点を色で表したマークと共に、発問が1～3個記載されている。</li> <li>発問が1～4個記載された特設ページや、教材の途中で発問が記載されたページ（1、3年生のみ）が設けられている。</li> </ul>	○

◎:特に優れている, ○:優れている

## 【観点2】 主体的に学習に取り組む工夫

	④	⑤	⑥	
視点	問題解決的な学習を取り入れた工夫	体験的な学習を取り入れた工夫	自己の生き方につなげる工夫	
方法	問題解決的な学習の扱い、教材名、内容項目、問題意識の持ち方、発問の具体例	体験的な学習の扱い、教材名、内容項目、体験的な学習活動の概要、発問的な発問を促す具体例	実生活に生かす教材等の扱い、具体例	
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決的な学習ができるよう、全ての教材の終わりの「考えてみよう！」のコーナーに、発問が示されている。</li> <li>特に2時間扱いの教材では、問題の発見から話し合いまでの学習の流れを明示したページが設けられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験的な学習を促す教材の後に、役割演技や体験学習を通して議論する教材である「ACTION！」が設けられており、目次及び該当ページにマークを付けて示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材の終わりに、実生活につなげるための発問が示された「考えてみよう！」のコーナーが設けられている。</li> <li>教材の冒頭に、関連して扱うことのできる教科がマークで示されている。</li> <li>教材で学習した内容を広げるためのコラムである「Plus」のページや、教材の終わりや巻末に「読書で広げる道徳」が設けられている。</li> </ul>	○
学 図	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決的な学習ができるよう、全ての教材の終わりの「学びに向かうために」のコーナーに、発問が示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材の終わりの「学びに向かうために」のコーナーに、体験的な学習を促す発問が示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材の終わりに、「見つめよう」のマークを付け、大事なことを自分のこととして見つめるための発問が示されている。</li> <li>多面的・多角的なもの見方や考え方を促したりする「心の扉」や、健康・安全に気をつけて、充実した毎日を送るよう促すページ「さあ、楽しい夏休み！」が設けられている。</li> </ul>	○
教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決的な学習ができるよう、全ての教材の冒頭に発問が示されている。</li> <li>全ての教材の終わりの「学びの道しるべ」のコーナーに、発問が示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験的な学習を促す教材の後に、実際に場面を演じたり、よりよい行いの練習をしたりして、教材での学びを深めるページである「やってみよう」が設定されており、目次及び該当ページにマークを付けて示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材の終わりに、自己の生き方に引きつけて考えるための発問が示された「学びの道しるべ」のコーナーが設けられている。</li> </ul>	
光 村	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決的な学習ができるよう、全ての教材の冒頭又は終わりの「てびき」に、発問が示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>直前の教材と関連させながら、イラストとともに発問を掲載して、体験的な学習を促すコラム「人と人との関係づくり」が設けられており、目次にも示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材の終わりの「てびき」のページに、授業で学んだことと他の教科や普段の生活との関わりなどを示した「つなげよう」が設けられている。</li> <li>いじめ問題など現代的な課題や人とよりよい関係を築くためのコラムが設けられている。</li> <li>巻末に、他教科・領域との関わりが示された「内容項目別教材一覧」が設けられている。</li> </ul>	○
日 文	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決的な学習に適した教材には、目次や該当ページ及び巻末にマークを付けて示し、教材の終わりの、問題を解決するための「学習の進め方」のページに、発問が示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>直前の教材と関連させながら、体験的な学習を促す「学習の進め方」のページが設けられており、目次や該当ページ及び巻末の内容項目別教材一覧に、マークを付けて示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材の終わりに、マークを付けて、自分を客観的に振り返り、学んだことを前向きに生かすための発問が示された「自分に+1」が設けられている。</li> <li>学習した内容を広げ、考えや視野を広げるコラムである「プラットホーム」が設けられている。</li> <li>巻末に、教科等との関連が示された「内容項目別教材一覧」が設けられている。</li> </ul>	◎
学 研	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決的な学習ができるよう、「深めよう」のページに、発問が示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>直前の教材と関連させながら、体験的な学習を促す「深めよう」のページが設けられており、目次にも示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関連情報を示した「クローズアップ」等のページが設けられている。</li> <li>「深めよう」のページに、授業で学んだことを生活の中で実践するよう促す「踏み出そう」が設けられている。</li> <li>巻末の内容項目別教材一覧に、他の各教科等との関連例が設けられている。</li> </ul>	○
廣 あ か つ き	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決的な学習ができるよう、教材の終わりの「考える・話し合う」のコーナーに、学習のめあてや発問が示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材の終わりの「考える・話し合う」のコーナーに、体験的な学習を促すことにつながる活動が掲載されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材の終わりの「考える・話し合う」のコーナーに、自分との関わりや、自己の体験を想起して考える発問を示した「考えを広げる・深める」が設けられている。</li> <li>巻末に、情報モラル等を題材とした特集ページが設けられている。</li> <li>別冊ノートに、自己の生活や様々な体験活動との関連を図った発問が示されている。</li> </ul>	
日 科	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決的な学習ができるよう、教材の終わりの「考え、話し合ってみよう そして、深めよう」のコーナーに、発問が示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験的な学習を促すことにつながる活動が掲載されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材の終わりに、実生活に生かすことを促す発問が示された「考え、話し合ってみよう そして、深めよう」のコーナーが設けられている。</li> <li>自分の考えを広げたり、深めたりすることをねらいとしたコラムが設けられている。</li> </ul>	

◎:特に優れている, ○:優れている

**【観点3】**  
**内容の構成・配列・分量**

	⑦	⑧	
視点	分量や教材の数	現代的な課題等を踏まえた内容の示し方	
方法	判型、ページ数、4つの視点ごとの教材数	いじめ問題・情報モラルの扱い、教材等の例	
東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>判は、A B判。</li> <li>別冊なし。</li> <li>ページ総数181～189。</li> <li>教材数35（付録の5教材を含む）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ問題に関する読み物教材が全学年で10教材（うち直接的に扱った教材が各学年に複数ある）、情報モラルに関する読み物教材が全学年で5教材設定されている。</li> <li>複数教材をまとめたユニットを設け、目次にも示されている。</li> <li>主題名を「情報モラルと友情」と設定された教材が、各学年に1教材ずつ設けられている。</li> </ul>	◎
学図	<ul style="list-style-type: none"> <li>判は、A B判。</li> <li>別冊なし。</li> <li>ページ総数224～228。</li> <li>教材数35。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ問題に関する読み物教材が全学年で9教材、情報モラルに関する読み物教材が全学年で5教材設定されている。また、いじめ問題及び情報モラルに関する特設ページが設けられている。</li> <li>いじめ問題を扱う教材には「いじめの防止」マークが、情報モラルを扱う教材には「情報のモラル」マークが目次及び教材に示されている。</li> </ul>	○
教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>判は、B 5判。</li> <li>別冊なし。</li> <li>ページ総数178～194。</li> <li>教材数35（付録の5教材を含む）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ問題に関する読み物教材が全学年で7教材（うち直接的に扱った教材が各学年に複数ある）、情報モラルに関する読み物教材が全学年で5教材設定されている。</li> <li>巻頭に、重点テーマとして、いじめ問題を扱う教材は「いじめや差別のない社会に」、情報モラルを扱う教材は「情報とよりよくつき合う」が示されている。</li> </ul>	◎
光村	<ul style="list-style-type: none"> <li>判は、B 5判。</li> <li>別冊なし。</li> <li>ページ総数224～232。</li> <li>教材数36。</li> <li>年間の学習が4つの「シーズン」（まとまり）に分けられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ問題に関する読み物教材が全学年で24教材（うち直接的に扱った教材が各学年に複数ある）、情報モラルに関する読み物教材が全学年で5教材設定されている。また、いじめ問題及び情報モラルに関するコラムが設けられている。</li> <li>巻末では、「テーマ別教材一覧」に、いじめ問題に関する教材がテーマを付けて示されている。また、内容項目別教材一覧に、いじめ問題や情報モラルを扱う教材が示されている。</li> </ul>	○
日文	<ul style="list-style-type: none"> <li>判は、B 5判。</li> <li>別冊あり（教材ごとに構成）。</li> <li>ページ総数191（別冊は40）。</li> <li>教材数35。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ問題に関する読み物教材が全学年で14教材、情報モラルに関する読み物教材が全学年で7教材設定されている。また、いじめ問題及び情報モラルに関するコラムが設けられている。</li> <li>いじめ問題や情報モラルに関する教材とコラムを組み合わせたユニットが各学年で設定され、いじめ問題に関する最初のユニットに、扉ページ「『いじめ』と向き合う」が設けられている。</li> <li>目次及び巻頭や巻末に、いじめ問題や情報モラルを扱う教材が示されている。</li> </ul>	○
学研	<ul style="list-style-type: none"> <li>判は、A 4判。</li> <li>別冊なし。</li> <li>ページ総数180～184。</li> <li>教材数35。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ問題に関する読み物教材が全学年で14教材、情報モラルに関する読み物教材が全学年で6教材設定されている。また、いじめ問題及び情報モラルに関する特設ページが設けられている。</li> <li>巻頭の「様々なテーマで学ぼうー主な教材の紹介」に、「いじめをなくすために」というテーマが設定され、教材が示されている。</li> <li>情報モラルを扱っている教材には、目次や教材の冒頭に、マークを付けて示されている。</li> </ul>	○
廣あかつき	<ul style="list-style-type: none"> <li>判は、A B判。</li> <li>別冊あり（内容項目ごとに構成）。</li> <li>ページ総数158～178（別冊は60）。</li> <li>教材数35。</li> <li>別冊ノートでは、教材が内容項目ごとに配列されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ問題に関する読み物教材が全学年で9教材、情報モラルに関する読み物教材が全学年で5教材設定されている。また、いじめ問題及び情報モラルに関する特設ページが設けられている。</li> </ul>	
日科	<ul style="list-style-type: none"> <li>判は、B 5判。</li> <li>別冊なし。</li> <li>ページ総数192。</li> <li>教材数37。</li> <li>教材が内容項目順に配列されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ問題に関する読み物教材が全学年で9教材、情報モラルに関する読み物教材が全学年で4教材設定されている。また、情報モラルに関する特設ページが設けられている。</li> </ul>	

◎:特に優れている、○:優れている

**【観点4】  
内容の表現・表記**

	⑨	⑩	
視点	巻頭・巻末等の取扱いの工夫	教材の内容を理解させる工夫	
方法	巻頭・巻末等の示し方	マーク・キャラクター等の示し方 活用の具体例	
東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭：目次では、全ての教材名や教材の構成等についての説明が、2段で示されている。また、写真を背景にした詩や教材名を4つの視点ごとに示したページが設けられている。</li> <li>・巻末：「郷土のことを考える」等の付録や、テーマごとに教材を分類したページ、学期ごとに学習の記録を記入するページ、切り取り式の「心情円」や「ホワイトボード用紙」が設けられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目次及び全ての教材の冒頭に、4つの視点を示したマーク、教材の終わりに「考えてみよう！」のマーク、教材の下段に「つぶやき」のマークが設定されている。</li> <li>・その他、「ACTION!」のマーク、「Plus」のマーク、教科との関連を示すマーク、デジタルコンテンツが用意されていることを示すマークが設定されている。</li> <li>・キャラクターとして、学習の進め方を示す「考えタイガー」等が設定されている。</li> </ul>	○
学図	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭：目次では、3ページにわたって、全ての教材名やマークについての説明が示されている。また、「心の扉」の該当ページを示したページ、グループワークを掲載したページが設けられている。</li> <li>・巻末：一年間の振り返りを記入するページや、教科書で目指すことを保護者に対して示したページ、4つの視点及びキーワードごとの教材一覧が掲載されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目次及び全ての教材の冒頭に、4つの視点を示したマーク、教材の終わりに、「考えよう」「見つめよう」等の活動のマーク、教材の冒頭の下に、「いじめの防止」等の「大切な10のポイント」のマーク、教材の終わりに、「振り返ろう」のマークが設定されている。</li> <li>・「心の扉」のマーク、巻末において、考えや振り返りを書き込む欄に鉛筆のマークが設定されている。</li> </ul>	○
教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭：目次では、4つの視点で色分けした教材番号と共に全ての教材名を2段で示すと共に、「学びの道しるべ」等のコーナーの活用を促している。</li> <li>・巻末：印象に残った教材や考えたことを書き込むページ、家の人や先生が書き込む欄を含め、どんな上級生になりたいかを書き込むページ、「都道府県にゆかりのある人物と、その言葉」が掲載されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目次及び全ての教材の冒頭に、4つの視点を色分けしたマーク、教材の終わりに、「学びの道しるべ」のマーク、教材名の下及び「学びの道しるべ」に、「問い」のマーク、教材の後に「やってみよう」のマークが設定されている。</li> </ul>	
光村	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭：目次では、学習のまとまりを色で区別して全ての教材名や学習する時期を示すと共に、ユニットのテーマや教材の冒頭に付いているマークについて紹介されている。また、イラストを背景にした詩が掲載されている。</li> <li>・巻末：「日本の郷土玩具」等の資料、各分野で活躍している人のメッセージ、テーマ別や内容項目別の教材一覧、四つのシーズンごとに道徳の時間を振り返る切り取り式の折り込みページが設けられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての教材の冒頭に、4つの視点を示したマークが設定されている。</li> <li>・目次及び扉ページに、1年間を4つに分けたまとまりを示すシーズンのマーク、現代的な課題について学びを深めるページに「コラム」のマークが設定されている。</li> </ul>	○
日文	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭：目次では、全ての教材名や教材の構成、マークの説明が示されている。また、写真及び学年の大テーマが掲載されたページ、教材がテーマごとに示されたページが設けられている。別冊ノートには、目次及び別冊ノートの使い方が示されている。</li> <li>・巻末：テーマや教科等との関連等が記載された内容項目別教材一覧、写真を背景にした詩が掲載されている。別冊ノートには、話し合いの内容をメモしたりまとめたりする欄等が設けられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての教材の冒頭及び別冊ノートの教材名の横に、4つの視点がマークで示されている。</li> <li>・目次や教材に、問題解決的な学習や体験的な学習のマーク、「デジタルマーク」、「プラットホーム」のマーク、「参考」のマーク、「私の生き方」のマークが設定されている。</li> <li>・目次や教材の終わり及び別冊ノートに、「考えてみよう」「自分に+1」のマークが設定されている。</li> </ul>	◎
学研	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭：目次では、マークについての説明及び全ての教材名が2段で示されている。また、写真を背景として著名人の言葉を記載したページや、教材名を内容項目や6つのテーマに合わせて分類したページ、自分の好きな言葉等を記入するページが設けられている。</li> <li>・巻末：「大切な友達に贈りたい言葉」等について書き込むページや、教材と学習指導要領・道徳の内容及び他の各教科等との関連例のページが設けられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目次及び全ての教材の冒頭に、4つの視点を色分けして示し、教材の終わりに、4つの視点の色と同じ色の旗のマークが設定されている。</li> <li>・「クローズアップ」「クローズアッププラス」「深めよう」のページにそれぞれのマーク、「情報モラル」に関する教材であることを示したマーク、書き込み欄のマークが設定されている。</li> </ul>	
廣あかつき	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭：目次では、全ての教材名及びマークの説明が示されている。また、豊かな自己の形成のための段階を示したページが設けられている。別冊ノートには、目次に加えて自分のことについて書き込むページが設けられている。</li> <li>・巻末：「情報モラル」等についてのコラムや内容一覧のページが設けられている。別冊ノートには、学習の記録をするページや、教材ごとや内容項目ごとの自己評価等をするページが折り込みページで設けられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての教材の冒頭に、4つの視点を色分けした丸が示されている。</li> <li>・教材の終わりに、「考える・話し合う」等のマーク、先人や著名人の言葉が掲載されているところに木の葉マーク、教材と関連して学びを深める特集のページに「thinking」のマーク、別冊ノートの中で自分の考えを書く欄に、鉛筆のマークが設定されている。</li> </ul>	○
日科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻頭：目次では、内容項目順に並んでいる全ての教材名が2段で示されている。また、写真やイラストを背景とした詩が掲載されている。</li> <li>・巻末：1年間の成長や道徳の授業等について振り返るページが設けられている。また、4つの視点で色分けして、内容項目ごとに全ての教材名を示した学習指導要領との対応表が設けられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての教材の冒頭に、4つの視点が色分けして示されている。</li> <li>・「考え、話し合ってみよう そして、深めよう」のマーク、特設ページに、「もっと知りたい」等のマークが設定されている。</li> </ul>	

◎:特に優れている, ○:優れている

**【観点5】  
言語活動の充実**

	⑪	⑫	
視点	考えを伝え合う活動の工夫	考えをまとめたり、振り返ったりする活動の工夫	
方法	話し合いを促す示し方、具体例	考えをまとめたり、振り返ったりする活動の示し方、まとめや振り返りの頻度数、具体例	
東書	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年とも、巻頭「道徳の授業はこんな時間に」において、「話し合いの手引き」やショートストーリーを例とした話し合いの場面を設定し、話し合いの具体的なプロセス等が示されている。</li> <li>各学年とも、教材の途中や終わりに、話し合いを促す発問が示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材の途中や終わりに、考えをまとめて書き込む欄を設けた教材（7～9教材分）や、感じたことなどを書き込む欄が設けられた教材がある。</li> <li>巻末に、授業の取組について振り返ったり、心に残った教材や授業で学んでよかったこと等を記録したりする振り返りのページが、3回分設けられている。</li> </ul>	○
学図	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年とも、巻頭「道徳の学習を始めよう！」において、話し合いのポイントを示すと共に、「学級づくり」のページにおいて、話し合いを促すグループワークが設けられている。</li> <li>各学年とも、「学びに向かうために」のコーナーに、教材における話し合いを促す発問が示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材の終わりに、メモ欄が設けられたり、「心の扉」のページに、考えをまとめて書き込む欄が設けられたりしている。</li> <li>思ったことや感じたことについて、教材ごとに学習の振り返りをする欄や、巻末に一年間の学習を振り返る欄が設けられている。</li> </ul>	○
教出	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年とも、巻頭「道徳って、どんなふうに学習したらいいの？」において、話し合いのポイントを示すと共に、教材の終わり「学びの道しるべ」のコーナーに、教材における話し合いを促す発問が示されている。</li> <li>各学年とも、「やってみよう」のページに、教材における話し合いを促す発問が示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「やってみよう」のページに、自分の考えや感想等を書く欄を設けた教材（1～2教材分）、また、1年生のみ、教材の途中で理由等を書く欄を設けたページ（3教材分）が設けられている。</li> <li>巻末に、印象に残った教材等（3教材分）を記録したり、新しい発見等があった教材に色を塗ったりする欄、また、どんな自分になりたいかを、家の人や先生も含めて記入する欄が設けられている。</li> </ul>	◎
光村	<ul style="list-style-type: none"> <li>1、2年生では、巻頭「『対話』で広がる、道徳の時間」において、話し合いのポイントが示されている。</li> <li>1年生では、コラムの中に「考えよう」のコーナーに内容における話し合いを促す発問を、2、3年生では、「てびき」や「確かめよう」のページに話し合いを促す発問が示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材の終わりや途中にある「てびき」に、自分が感じたことや考えたことを記入する欄が設けられている。</li> <li>2、3年生において、教材の途中で自分の考えを記入する欄が設けられたページがある（1～2教材分）。</li> <li>巻末に、シーズンごとの自分の学びの振り返りや考えを記述する折り込みページ、3年生においては、自分の人生目標を書く年表が設けられている。</li> </ul>	
日文	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年とも、巻頭「道徳科での学び方」の中において、話し合いのポイントを示すと共に、教材の終わり「学習の進め方」のページに、教材における話し合いを促す発問や「話し合いの例」が示されている。</li> <li>各学年とも、別冊ノートの各ページ及び巻末に、友達の意見や話し合いをメモする欄が設けられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>別冊ノートに、教材の終わりに掲載された発問について、自分で考えたことなどを書き込む欄（各教材分）や、巻末に話し合いの内容をメモしたりまとめたりする欄が設けられている（6回分）。</li> <li>別冊ノートに、授業で学んだこと等について振り返る欄（各教材分）や、巻末に道徳の学習で印象に残ったこと等を記入する保護者記入欄付きの振り返りのページが設けられている（3回分）。</li> </ul>	◎
学研	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年とも、巻頭「新しい扉を開く」において、話し合いのポイントが示されている。</li> <li>2、3年生において、教材の終わりに、教材における話し合いを促す発問を、各学年の教材の終わり「深めよう」のページに、「話し合おう」を設定し、グループでの話し合いの流れが示されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「クローズアップ」「深めよう」のページや教材の途中で、自分の考えを書き込む欄が設けられた教材がある。</li> <li>教材の終わり「深めよう」のページに話し合いを振り返って気付いたことを書く欄（4教材分）や、巻末に1年間の自分の成長を振り返るページが設けられている。</li> </ul>	
廣あかつき	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年とも、巻頭「道徳の時間とは」において話し合いの意義が、教材の終わり「考える・話し合う」のコーナーに教材における話し合いを促す発問が示されている。</li> <li>各学年とも、別冊ノートの巻末に、話し合い活動を記録する欄が設けられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>別冊ノートに、自分の考えや、学習を通して感じたこと、考えたことをまとめる欄、話し合いを通して新たに気づいたことや考えたことをまとめる欄、学習の記録を書く欄が設けられている。</li> <li>別冊ノートに、自分のことについて振り返って書く欄、心に残っている授業の記録を書く欄、教材ごとや内容項目ごとの自己評価、学期ごとに伸ばしていきたいことなどについて振り返る折り込みページが設けられている。</li> </ul>	◎
日科	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年とも、巻頭では、「道徳科って何を学ぶの？」において話し合いのポイントが示され、「教科書の使い方」のページにおいて話し合いが促されている。</li> <li>各学年とも、教材の終わり「考え、話し合ってみよう」そして、「深めよう」のコーナーに、教材における話し合いを促す発問が示されており、話し合いを促した「コラム」が設定されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材の途中やコラムに、自分の考えを書き込む欄が設けられた教材がある（3～4教材分）。</li> <li>巻末に、1年間の成長や道徳の授業等について振り返るページが設けられている。</li> </ul>	○

◎:特に優れている、○:優れている

正 誤 表

平成30年8月24日開催の呉市教育委員会臨時会で配布した資料に誤りがあったため、ホームページ掲載資料については、次のとおり訂正をしています。

1 訂正資料

平成30年度呉市教科用図書（中学校「特別の教科 道徳」）選定委員会 総合所見

2 訂正箇所及び内容

(1) 総合所見（発行者別）No.3及びNo.4

【誤】

No.3

発行者	総合的な所見
学図	3 ⑦ ・判は、AB判。 ・別冊なし。 ・ページ総数224～228。 ・教材数35（付録の5教材を含む）。

No.4

発行者	総合的な所見
教出	3 ⑦ ・判は、B5判。 ・別冊なし。 ・ページ総数178～194。 ・教材数35。

【正】

No.3

発行者	総合的な所見
学図	3 ⑦ ・判は、AB判。 ・別冊なし。 ・ページ総数224～228。 ・教材数35。

No.4

発行者	総合的な所見
教出	3 ⑦ ・判は、B5判。 ・別冊なし。 ・ページ総数178～194。 ・教材数35（付録の5教材を含む）。

(2) 総合所見（観点別 観点3）

【誤】

【観点3】 内容の構成・配列・分量	
⑦	
視点	分量や教材の数
方法	判型、ページ数、4つの視点ごとの教材数
学図	・判は、AB判。 ・別冊なし。 ・ページ総数224～228。 ・教材数35（付録の5教材を含む）。
教出	・判は、B5判。 ・別冊なし。 ・ページ総数178～194。 ・教材数35。

【正】

【観点3】 内容の構成・配列・分量	
⑦	
視点	分量や教材の数
方法	判型、ページ数、4つの視点ごとの教材数
学図	・判は、AB判。 ・別冊なし。 ・ページ総数224～228。 ・教材数35。
教出	・判は、B5判。 ・別冊なし。 ・ページ総数178～194。 ・教材数35（付録の5教材を含む）。